

ヨシ原

ヨシ原などの自然植生が連続した河川は、都市部において、鳥類や昆虫類、水生生物等の貴重な生息場所となっています。

安威川では、ヨシ原が下流から中流部にかけて、数kmにわたり連続して分布しており、エコロジカル・ネットワーク（20ページ参照）としても重要です。



セグロセキレイ (スズメ目セキレイ科)

- 識別難易度 ★★
- 観察難易度 ★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

スズメより大きい。顔から背中にかけて黒く、顔には白い眉のような斑がある。尾羽が長い。

■ 生息環境

河原などで見られる。冬はヨシ原などをねぐらとする。



ハクセキレイ (スズメ目セキレイ科)

- 識別難易度 ★★
- 観察難易度 ★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

スズメより大きい。白い顔に目を通る黒い線が特徴的。尾羽が長い。

■ 生息環境

公園や水辺で地面を素早く歩く姿を見られる。餌となる昆虫などが生息に必要である。



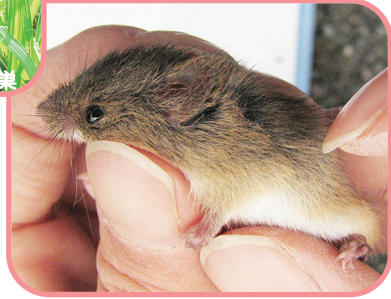


カヤネズミ(ネズミ目ネズミ科) 府

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴



カヤネズミの巣



胴体は5~8cmと小さく、日本最小のネズミ。胴体と尾がほぼ同じ長さ。巣は球状で、ソフトボールくらい。ススキやヨシなどに巣をつくることが多い。

■ 生息環境

ススキやヨシ、オギなどの草がある程度まとまって生えている草地で見られる。草の上に作られた巣を探すと良い。河川改修などにより生息地が失われている。

日本の固有種はすごい！

固有種とは、特定の限られた地域に生息する種のことをいいます。世界を見ても、その地域にしか生息しないため、その地域の個体群の絶滅は種の絶滅を意味します。

日本は島国であるため、周囲と個体群が隔離されやすく、標高差が大きい複雑な地形、南北に長く、変化に富んだ気候条件などにより、種分化が起こりやすくなっています。日本国内で見られる動植物のうち、固有種の割合は、維管束植物で34%、哺乳類で45%、両生類で75%、魚類で11%と、世界的に見ても高い固有性をもっています。

国際的な自然保護団体であるコンサベーション・インターナショナルは、世界中で36ヶ所（平成29年現在）を、固有種が多く生物多様性の保全上、世界的に重要な地域として「生物多様性ホットスポット」に選定しており、日本は全域が、マダガスカルやガラパゴス諸島などと並び選定されています。

【茨木市で見られる日本固有種】



オオサンショウウオ



アジメドジョウ



ササユリ

自然観察で気を付けること

- ・ごみは捨てずに持ち帰りましょう。
- ・農地やため池は個人の方の所有物です。勝手に立ち入らないようにしましょう。
- ・危険な生きものには注意しましょう。
- ・公共交通機関の利用を心がけましょう。
- ・車で行く場合は、必ず駐車場を利用しましょう。
- ・林道をはずれることはやめましょう。
- ・野生動物への給餌はやめましょう。
- ・動植物のむやみな採集はやめましょう。

「自分一人だけなら採ってもいいだろう」という考えを多くの人がつつと、やがてその動植物は見られなくなってしまいます。花を折るだけでも、種で増える植物は子孫が残せなくなってしまいます。キンランやエビネ、シュンランなど、盗掘によって数が減り、滅多に見られなくなった植物もあります。

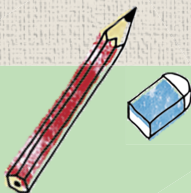
キンラン



エビネ



シュンラン



発行：茨木市
発行日：平成29(2017)年12月
編集：産業環境部 環境政策課
〒567-8505 茨木市駅前三丁目8番13号
TEL：072-620-1644
FAX：072-627-0289